

令和8年度 一学期始業式 式辞

はじめに

令和七年度という新たな節目を越え、本日ここに、令和八年度のスタートを皆さんと共に迎えることができたことを、心から嬉しく思います。

この四月、私は校長として丹後中学校に赴任いたしました。目の前に広がる丹後松島の雄大な景色はまさに自然の芸術です。このような素晴らしい環境の中で、教職員とともに、皆さんの成長を見守っていけることに、今、大きなわくわくと期待を抱いています。

二年生、三年生の皆さん、進級おめでとうございます。皆さんの表情からは、新学年に対する決意と、少しの緊張が伝わってきます。その新鮮な気持ちを、ぜひ大切にしてください。

合言葉は「本気でチャレンジ」

本校には、長年受け継がれてきた「本気で高みに挑戦する」という誇り高い伝統があると聞いています。この素晴らしい伝統を胸に、今年度も私たちは一つの合言葉を掲げます。

それは、**「本気でチャレンジ」**です。

私たちは、自分でも気づかないうちに「これくらいいいや」とブレーキをかけたり、全力を出し切らずに余力を残したりしてしまうことがあります。しかし、人の心に本当の意味で「生きがい」や「感動」が生まれるのは、他の人にはどんなに不思議に見えることでも、ひたすら一生懸命に、泥臭く努力している瞬間ではないでしょうか。

私が大好きなテレビ番組「博士ちゃん」には、大人も驚くような知識を持ち、自分の「好き」を突き詰めている子供たちが登場します。彼らの瞳が輝いているのは、誰に言われるでもなく、自分のやりたいことに向かってとことんチャレンジしているからです。

皆さんにも、この一年間で「これだけは汗を流して取り組んだ」と言えるものを、一つでいいから見つけてほしいと思います。いきなり苦手なことに挑むのは勇気がいるかもしれませんが、まずは、自分の得意なこと、好きなこと、もっと伸ばしたいと思うことからスタートしましょう。一歩踏み出した先には、きっと清々しく、さわやかな喜びが待っているはずですよ。

一年間大切にしてほしい三つのこと

この「本気でチャレンジ」を実践するにあたって、皆さんに特に意識してほしい三つの柱をお話しします。

- **一つ目：主体性 —— 「自ら学び、考える」**

現代は情報化が急速に進み、知識の量や処理速度では、私たちは到底 AI に勝つことはできません。だからこそ、受け身の姿勢で指示を待つのではなく、あらゆる物事を「自分事」として捉え、自ら問いを立て、考える姿勢が重要です。自分という人間を創り、育て、伸ばしていくのは、他の誰でもない、皆さん自身です。私たち教職員やご家族は、その挑戦を全力でサポートしていきますが、その種火は常に皆さん一人ひとりの中にあることを忘れないでください。

- **二つ目：協働 —— 「多様な人とのコラボレーション」**

これからの予測困難な社会では、一人の力だけで解決できる課題には限界があります。自分とは異なる考えや強みを持つ仲間と手を取り合い、アイデアを出し合うことで、一人では到達できなかった答えに辿り着くことができます。勉強は一人で机に向かってすることもできますが、「誰かと協力して何かを成し遂げる力」は、学校で学ぶことができる力です。

- **三つ目：挑戦 —— 「失敗を恐れぬチャレンジ」**

先ほども述べた通り、合言葉は「本気でチャレンジ」です。失敗を恐れて何もしないことよりも、挑戦して失敗し、そこから何を学ぶかということの方が遥かに価値があります。

結びに代えて

明後日、十日には二十八名の新入生が、大きな期待と不安を胸に丹後中学校の門をくぐります。彼らにとって、皆さんは目標となる頼もしい先輩です。新入生が「この学校に来てよかった」と思えるような、温かく、そして活気ある入学式を、ぜひ皆さんの手で創り上げてあげてください。

令和八年度、「主体性」「協働」「挑戦」を柱に、「本気でチャレンジ」で成長の年となることを心から願い、式辞といたします。